

平成28年1月14日

上田市長 母 袋 創 一 様

上田城南地域協議会
会長 荒 井 貞 雄



意 見 書

上田市地域自治センター条例に基づき、下記のとおり地域協議会の意見を提出します。

記

1 件 名	小中学校児童期におけるこれからの子育てについて
	<p>城南地域協議会第2部会では、上田市総合計画の地域まちづくり方針に定める「地域で子どもを育てるまちづくり」の具現化を図るため、平成29年度から運用開始予定の「信州型コミュニティスクール」について、先進地視察や学校訪問をとおして調査研究を行いました。</p> <p>信州型コミュニティスクールの導入は、児童の社会性や生活力を育むとともに、学校と地域住民との交流を促進し、双方を活性化させる効果のあることを踏まえ、下記のとおり意見書として提出します。</p>
2 意 見 内 容	<p>記</p> <p>意見1 学校支援ボランティアの充実について 意見2 コーディネーターの養成及び地位の確立について 意見3 信州型コミュニティスクールの早期導入について</p> <p>具体的な内容につきましては、別紙「小中学校児童期におけるこれからの子育てについて」とおりです。</p>

小中学校児童期におけるこれからの子育てについて
～信州型コミュニティスクールの導入に向けて～

平成28年1月14日

上田城南地域協議会

第2部会

1 テーマ選定に至る経過について

上田城南地域協議会第2部会では、小中学校児童期における育成をとらえ、「これからの子育て」をテーマにしました。子どもたちの現在の生活において、

- 1 大人が準備しすぎてしまい、子ども自身でやることが少ない。
 - 2 保護者の労働環境の影響等で、家庭での家族の日常対話が少ない。
 - 3 テレビ・ゲーム・スマートフォン・インターネット利用時間の増加により、家庭、友人、地域の人々との生身のコミュニケーションが不足している。
 - 4 児童期は大人への助走期間であるが、生活力、社会力を育てる機会が少ない。
- などの問題点が指摘されます。

教育と育成の三要素として

1、学力の向上 2、体力の向上 3、社会力（生きる力）の向上
が重要な要素として挙げられます。上記1、2は学校が主体となり、3は地域が取り組むべき課題です。

第2部会では、地域でどのように子どもたちの育成に関わり、社会力を高めていけば良いのか、その方策について検討しました。

様々な視点がある中、今回は、文部科学省、長野県教育委員会が推進している「信州型コミュニティスクール」に焦点を当て、地区内小中学校へのアンケート、学校訪問（懇談）をとおして現状を把握し、また、先進地の視察、先進地コーディネーターの講習を受講することをとおして目指すべき方について研究しました。

具体的な提案については以下のとおりです。

2 現状について

（1）信州型コミュニティスクールについて

コミュニティスクールとは、文科省が平成22年度から熟議を重ね、推進している「地域とともにある」学校のことです。社会が複雑多様化する中で、学校や子どもたちを取り巻く様々な課題を解決するためには、学校と地域、家庭が連携・協力し、地域全体で子どもを育もうという趣旨のもとに創られた制度です。

長野県では、それを信州型コミュニティスクールとして、学校と地域住民の協働による地域に開かれた学校づくりを推進しています。

信州型コミュニティスクールには、地域と学校、保護者が学校や児童のあるべき姿を話し合う「学校運営に参画する機能」、地域ボランティアが学校を支える「学校支援の機能」、地域と学校における関係を評価する運営委員会「学校評価の機能」の3つの機能があり、それらを平成29年度までに、学校や地域の実情に合わせて整えていくことが急務となっています。（詳細は資料1参照）

(2) 上田市の現状について

上田市内の小中学校におけるコミュニティスクールの設置状況及び学校支援ボランティアの活動状況は資料2のとおりです。

全般的な傾向として、総合学習や部活動等には多くの学校で以前から学校支援ボランティアを導入していますが、ボランティアと学校をつなぐコーディネーターを設置しているところや学校運営委員会が機能していることころはわずかです。

しかし、学校運営委員会が設置されていなくても、ボランティアが定期的に入り、コーディネーターが常に動いている学校では、「児童の学習への意欲や登校する意欲が向上した」「ボランティアさんに悩み事を聞いてもらえた」など、プラスの声が報告され、一定の効果が表れています。

(3) 城南地域の現状

城南地域については、信州型コミュニティスクールの進捗状況及び困っていること、要望等に関して、アンケートと懇談を実施しました。

①アンケート調査の結果から（資料3参照）

アンケートは平成26年12月に実施しました。全般的な傾向として、以前から入っていただいているボランティア中心の現状を良しとしている状況が伺えました。様々な分野のボランティアの導入や今以上にボランティアの層を厚くすることについて、学校での教育活動が豊かになると認識しながらも、そこまでの受け入れ態勢が整っていない、必要性を感じていないという状況でした。

②学校との懇談から（資料4参照）

今年度は学校側の生の声を聴くために、夏休みに、各学校を訪問し、現状と課題、要望等を尋ね、様々なご意見をいただきました。

- ・ 現在、教頭や学社連携担当の教諭がコーディネーターを兼ねている学校が多く、実際のところ、負担が大きいため、公民館職員または地域の役職の方々など、教職員ではないコーディネーターの設置が望まれる。
- ・ 日頃から学校に深く関わっている地域の方をコーディネーターにと考えているが、高齢化が進んでいるため、改めてコーディネーターとして委嘱することで、かえって負担が大きくなることが危惧され、正確な位置づけが出来ていない。
- ・ 新たに、環境ボランティアや学習支援ボランティアに入っていただきたいが、個人情報、守秘義務などもあり、募集が出来ない。
- ・ ボランティアルームが必要だと聞くが、学校には空き教室がない。
- ・ 現場の先生方は多忙なため、必要な時のみボランティアを要望する傾向が強く学校内で信州型コミュニティスクールについての考え方方が統一できていない。これらの様々なご意見から、コミュニティスクールの導入や、そのための体制づくりについて悩んでいる学校の多いことが分かりました。

(4) 先進地域の現状

第2部会では、学校支援ボランティアやコミュニティスクールについて理解を深め、より良い方向を見つけるために、先進地の視察、生涯学習センターの専門家による講座を受講しました。

① 観察研修から (資料5参照)

平成26年度、先進地の神科小学校の学校支援ボランティアの活動を観察しました。神科小学校の学校支援ボランティアは「おたすけっ十有志隊」と名付けられ、校庭の見える校舎の端のボランティアルームを拠点として活動しています。

日常的には午前中の20分休みに訪ねてくる子どもたちと遊び、その他は学校側からの要望に応じて、作業、外活動、物づくりの活動等、様々な分野の学習のお手伝いをされています。活動開始当時は、依頼も少なかったそうですが、実績が実績を呼び、今では子どもたちにとって無くてはならない存在になっています。

ボランティアの中に代表責任者や調整担当者がおり、全て自己責任で活動をされています。コーディネーターは隣地の上野が丘公民館の社会教育指導員です。

子どもたちの嬉々とした声、ボランティアさんたちの笑顔が印象的でした。

高齢のボランティアが多いですが、シニア世代の役立ち感、やりがいを感じる場であり、地域とつながる場所にもなっていることが分かりました。

② 生涯学習センターの講座から (資料6参照)

今年度は、生涯学習センターで開催された、東京都の小平市立小中学校のコーディネーターをされている布昭子氏のスキルアップ研修を受講しました。コーディネーター歴10年の布氏から、当時の苦労や継続していくポイントをお聞きしました。

先進地では、教職員ではない専門のコーディネーターが各学校に市の予算で配置され、学校と地域をつなぐ役割を担っています。

開始当初は教職員から認めてもらえないような存在でしたが、生徒たちに寄り添い、先生方をサポートすることで、いじめや問題行動も減ったそうです。

小平市では、市全体の取組として、学校支援ボランティアの活動を実施しているため、学校間や学校内での温度差が無いよう、また、ボランティアによるトラブルが起きないように、コーディネーターやボランティアは、「児童生徒の発達」「個人情報」「守秘義務」等研修を受け、スキルアップを図っています。

3 課題について

视察や研修をとおして、城南地域の現状を見た場合、次のような課題が考えられます。

(1) 学校支援ボランティアの位置づけについて

学校支援ボランティアのこれまでの役割は、学校の先生方が出来ない分野の学習のお手伝いをする、必要な時だけ支援するというものでした。

しかし、コミュニティスクールに向けて、地域全体で子どもを育てる観点で考えるなら、ボランティアは単なる先生のお手伝いではなく、子どもたちと交流する地域の人としての位置づけが必要です。しかし、現状は、学校の先生方、ボランティアの双方が学習支援ボランティアの位置づけについて、共通認識を持っていません。

子どもの成績等の個人情報の関係で、学習支援に入るボランティアの導入を見送っている学校が多いことも課題です。勉強が分かってこそ学校が楽しくなるという原点に立ち返り、学習支援ボランティアの導入について考える必要があります。

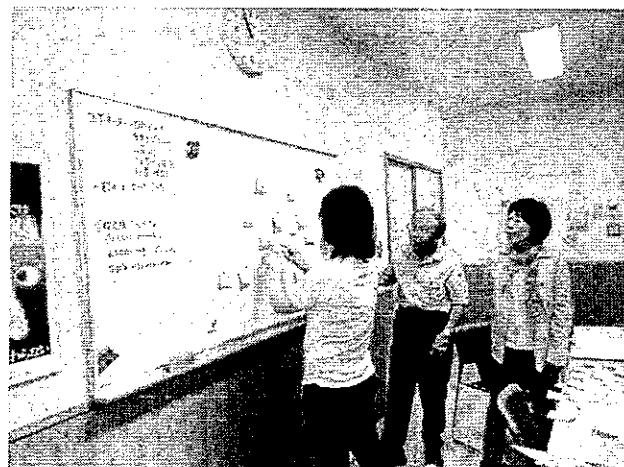
(2) コーディネーターの配置について

専門のコーディネーターがいないことが課題です。教頭や担任は本来の業務がありますので、校内のニーズに合わせたボランティアを養成し、新しい人材を発掘することは困難です。また、公民館職員が対応しているところもありますが、学校に近い場所でサポートするために、ボランティアの発掘、養成に地域を回れる専門のコーディネーターの配置が必要です。

(3) 信州型コミュニティスクールの導入について

まずは、信州型コミュニティスクールについて理解することが大切です。学校支援ボランティアやコーディネーターと同様に、学校や地域が本来の意義と位置づけについてよく理解していないことが課題です。そのため共通理解を図る研修の場が必要です。

部会で課題について
話し合っている様子



4 意見

(1) 学校支援ボランティアの充実について

子どもたちの社会性を育むために様々な分野のボランティアの活用を提案します。

①学校支援ボランティアの充実

特に学習支援は、子どもたちの「授業が分かる喜び」をサポートし、「学校が楽しい場所」となることのお手伝いに繋がる重要な活動になります。

- ・学校周囲の環境整備作業（除草・花壇・庭木の手入れ等）
- ・学校行事の支援活動（田畠作業・遠足・運動会・体験活動の補助等）
- ・各クラブ活動の支援（運動部、文化部の指導補助）
- ・学習支援（数学・理科・家庭科等の授業の補助、ドリルの丸付け、特別支援児童の支援、不登校傾向の児童の支援）

②ボランティア活動の拠点の確保

ボランティアの拠点があると、横の連絡が取れ、子どもたちや学校の先生方がボランティアに連絡を取りたいときに取れる場所となるため、拠点づくりは重要です。空き教室が無ければ図書館や資料室等代用案も検討可です。

③ボランティアの確保、人選

初めてのボランティア活動には戸惑いも伴います。学校の仕組みや児童への接し方を学び、守秘義務を徹底するなど、研修や互いに学びあう場が大切です。

- ・ボランティアの人材の発掘
- ・ボランティアの研修制度（心構え、スキルアップ、振り返り等）

(2) コーディネーターの養成及び地位の確立について

複数のボランティアが効果的に活動するためには、学校と密に連絡調整する専門のコーディネーターが必要です。長期的に学校を支えるために、コーディネーターの養成・研修、費用弁償等、地位の確立を提案します。

- ①コーディネーターの養成及び研修制度（コーディネーター間の連携も重要）
- ②費用弁償等、経済的支援（自家用車で地域を動くことが多いため負担軽減）
- ③コーディネーターの地位の確立（地域の人に周知を図る広報啓発等）

(3) 信州型コミュニティスクールの導入について

信州型コミュニティスクールの早期実現を期待します。学校、地域がそれぞれに、また、合同で、研修を深め、地域全体で子どもを育てる意識を醸成します。

- ①学習会の開催（先進地視察、先進地DVD視聴、他地域との交流、学校内の研修、学校間の情報交換等）
- ②運営委員会の設置、活用（ボランティア、役員、評議員との連携を図る）
- ③予算確保（ボランティアやコーディネーターが安心して活動できる活動費、意識を共有するための研修費）

5 まとめ

不登校傾向の児童が増えている、発達障害等で困難を抱えている児童もいる、最近の子どもたちは自己肯定感が低い、小学校で勉強についていけない、生活に追われ子育てに時間の割けない家庭もある等、子どもを取り巻く環境について様々な不安要素の多い時代だからこそ、子どもたちへの支援が必要です。

一番は子どもたちの一日の居場所である学校が、子どもたちにとって、授業が分かれ友達がいる「自分の居場所」であって欲しいと願います。

国や県が推進しているコミュニティスクールの導入は、子どもを支援する体制づくりとしてプラスの方向に導いてくれるものと確信します。

これまで、学校で子どもたちに関わる大人は教職員だけでしたが、コミュニティスクールの導入で、子どもたちは、より多くの異世代、異年齢の地域の人々と交流をすることになります。少子高齢化が進み、人間関係が希薄な時代だからこそ、学校が子どもたちや地域の人たちの社会性を高める場となるでしょう。

子どもは認められると自信を持ちます。ある学校には、毎日ボランティアに会うことを楽しみに登校している児童がいます。どんなに教室が離れていても、わずかな時間でもボランティアに会いに来ます。その子にとって、そこが認めてもらえる居場所であるため、それが励みとなり学校を休まずに登校できるようになりました。

また、ボランティアの中にも、子どもたちとの出会いに感動し、学校へ行くことで地域の人たちとの交流が増え、生活に張りが出たという人も多くいらっしゃいます。

これまで、あまり入っていなかった第三者が学校に入るわけですから、互いに抵抗もありますし、遠慮や余計な気遣いも増え、「大変」だと思われる事が続くかもしれません。しかし、軌道に乗り、子どもたちと地域の人々、ボランティアと先生方の間に信頼関係が生まれれば、こんなにも心強いものはありません。何か、学校でトラブルが起きても、地域参画のコミュニティスクールですので、トラブルの責任は学校だけではありません。学校や地域を含めた全体の課題として、取り組むことになるでしょう。

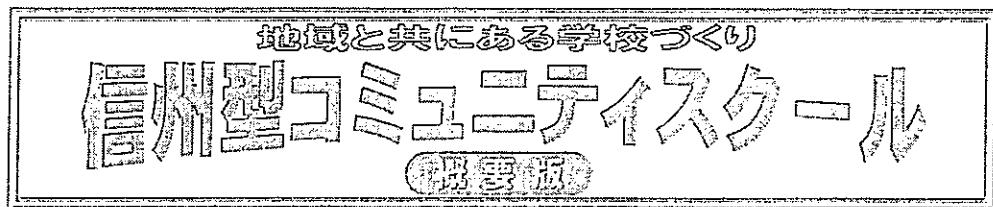
第2部会では、様々な研修や活動、協議を重ね、信州型コミュニティスクールの重要性に気づくことができました。

平成29年度には長野県の全地域でコミュニティスクールが開始されますが、この城南地域には、十分な学習や協議の基に、子どもたちにも地域にとってもプラスとなるコミュニティスクールが誕生すると期待します。

2015,8,5
第六中学校訪問

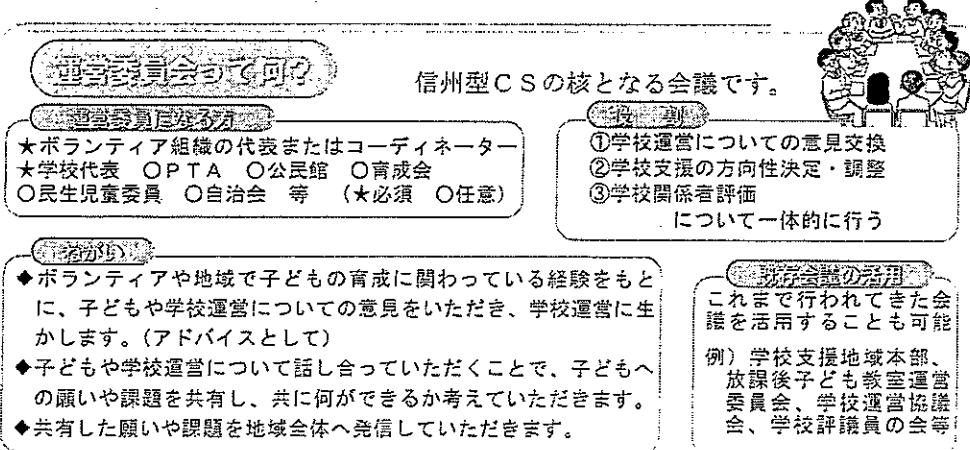
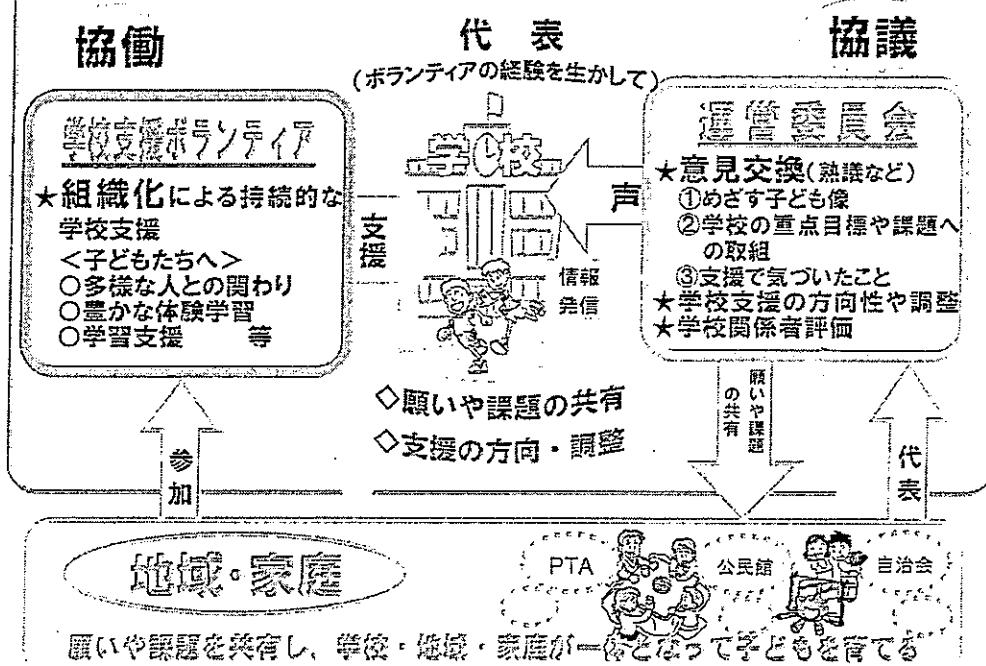


長野県教育委員会生涯学習課資料



信州型コミュニティスクールとは

信州型CSとは、学校と地域が「こんな子どもを育てたい」という願いを共有しながら、一体となって子どもを育てる仕組みを持った地域と共にある学校です。



上田市教育委員会生涯学習課資料

平成26年度 上田市内小中学校における学校支援の状況

H27.7.21
生涯学習課

連絡委員会	会議内容			会議参加			コーディネーターの有無			コミュニティースクールの認定等			参考	コーディネーター					
	設置済会員の数	会員登録の件数	会議回数	イボアランチ表	イボアランチ代	イボアランチティ	一般団体の方	教職員等	公職員等	教育事務所	地域本部	学校支援の実績							
清明	○												○	70 中央公民館講員					
東西	○	○	3	5			1	1					○	127 公民館担当者					
北城下	○	○	○	○	○	○	3	4	1	1	○	○	○	278 市教委青少年局指導員					
塩尻	○	○	○	○	○	○	3	9	4	1	○	○	○	40 元城南公民館長					
川辺	○	○	○	○	○	○	3						○	0					
神川	○	○	○	○	○	○							○	0					
神科	○	○	○	4	1	7	1	1	1	○	○	○	○	200 教頭					
豊殿	○	○	○	3	6	1	1	1	1	○	○	○	○	35 公民館指導員					
東塩田	○	○	○	3			3	14			○	○	○	71 地域ボランティア					
中塩田	○	○	○	○	2	○	2	10	2	○	○	○	○	14					
塩田西	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	54 教師・研究主任					
浦里	○	○	○	○	○	○	8			○	○	○	○	6					
川西	○	○	○	○	○	○	5			○	○	○	○	170					
南	○	○	○	3	3	10		1	1	○	○	○	○	30 教頭					
丸子中央	○	○							1				○	50 教頭					
西内	○												○	0					
丸子北	○	○	○	○	○	○							○	0					
塩川長	○	○	○	○	○	○	6			○	○	○	○	24					
傍陽	○	○	○	○	○	○	3	1	1	1	○	○	○	36 生涯学習担当係長					
本原	○	○	○	○	○	○	13	1	1	1	○	○	○	30 地域教育事務所					
菅平	○	○	○	○	1	4	8	1	1	1	○	○	○	44 公民館次長					
武石	○	○	○	2	4	1	1	1	1	1	○	○	○	30 地域連携担当教諭					
計	9	6	10	14	10	10	15	34	53	7	3	6	4	3	9	2	0	9	1,839

運営委員会		会議内容			会議参加			コーディネーターの有無			コミュニティースクールの認定等			参考							
設置済	会員数	無し	学校支援	学校運営評価	会議回数	イボ	アラン	テボ	ネコ	一地域	教職員	職員	公職員	教育事務所	国	地学	校田支市	学上	ティラン	チヤン	コーディネーター
第一	○																				
第二	○	○	○	○	3														0		
第三	○																		0		
第四	○																		0		
第五	○	○	○	○	1														0		
塩田	○	○	○	○	4	5	2	1		1									0		
第六	○	○	○	○	3	2	11	1		1	○								0		
丸子	○										○								11	公民政員	
丸子北	○	○	○	○	2	2													0		
真田	○	○	○	○	2														38		
菅平	○	○			3	5					1	○							0	対田中央公民館	
計	3	4	4	5	6	3	7	14	13	2	0	1	3	0	3	0	1	3	49	スギー活動担当職員	
総計	12	10	14	19	16	13	22	48	66	9	3	7	7	3	12	2	1	12	1,888		

アンケート結果

調査の目的

地域住民による学校での支援体制の構築や地域ボランティアの参加に向けて、学校と地域の連携の仕組みづくりを検討・研究する目的で、城南地域の5小中学校にアンケート調査を実施した。

- 調査実施日 平成26年12月17日(水)
- 回収完了日 平成27年 1月19日(月)
- 対 象 城南地域に所在する5小中学校
(南小学校、川辺小学校、城下小学校、第四中学校、第六中学校)
- 回 収 方 法 郵送による
- 今後の予定 アンケート結果を踏まえ2月以降対応を検討していく

問1 県では信州型コミュニティスクールの導入を目指す方針を示していますが、貴校では、様々な学校行事において、地域住民による学校支援(地域ボランティア)を取り入れていますか。①現在、取り入れている。②過去に取り入れていたことはある。

③検討中である。④取り入れていない。⑤その他()

答1 すべての学校が①と回答。

問2 地域ボランティア活動について、どのような学校行事に取り入れていますか。あるいは、過去に取り入れていましたか。

答2 学校ごとの回答は以下のとおり。

- 1) 南小学校(読み聞かせ、米作り、蚕の学習、環境整備、クラブ活動、リサイクルの学習、教科学習支援、登下校の見守り)
- 2) 川辺小学校(読み聞かせ、米作り、豆腐作り、合唱指導、郷土学習、交通安全街頭指導)
- 3) 城下小学校(読み聞かせ、米作り、小牧の文化と歴史、環境整美、クラブ講師、社会科見学、折り紙教室、魚放流、創造館学習、薬物乱用防止教室、交通安全教室)
- 4) 第四中学校(クラブ活動補助、避難訓練の事前事後指導)
- 5) 第六中学校(読み聞かせ(上田に伝わる民話)、学習支援)

問3 今後、地域ボランティアが活躍できる事業や分野、ボランティアが必要だと思われる活動があれば教えてください。

- | | | |
|----------|------------------|-------------|
| ① 校内環境美化 | ② 食物農業 | ③ 地域の伝統文化歴史 |
| ④ スポーツ | ⑤ 校内行事と教科科目等への支援 | ⑥ その他 |

答3 学校ごとの回答は以下のとおり。

- 1) 南小学校(校内行事と教科科目等への支援)
- 2) 川辺小学校(校内外環境整備事業、農業、郷土資料室の整備、クラブ活動、学習支援、校外見回り隊)
- 3) 城下小学校(校内行事と教科科目等への支援、学習支援ボランティア)

- 4) 第四中学校（樹木の剪定、ねぷた祭のため美術部が地域の方と作品共同制作、運動部の技術的支援、避難訓練の支援）
- 5) 第六中学校（校内樹木の剪定、部活の外部指導者）

問4 既に活動が行われている場合に限って御回答ください。現在、どのような運営方法で受け入れを行っていますか。

答4 学校ごとの回答は以下のとおり。

- 1) 南 小学校（教頭がコーディネーターとなり、依頼調整を行う）
- 2) 川辺小学校（個別に地域に依頼する方法）
- 3) 城下小学校（学校融合連絡会議を持っている、個別に地域の方に依頼する）
- 4) 第四中学校（①部活補助：年度当初校長から依頼、その後各部の顧問と連絡を取り合い運営している②避難訓練指導：校長が教頭を通して会長へ依頼、教頭と係が連絡会を設けて運営）
- 5) 第六中学校（川西公民館の長井さんがボランティアコーディネーターとなって隨時学習ボランティアを受け付けている）

問5 学校運営全体を通して、困っていることがあれば御記入ください。

答5 学校ごとの回答は以下のとおり。

- 1) 川辺小学校（一部、特別な支援が必要な子が多く、学習面の苦手さをかかえている子も多い。学習支援が担任だけでは厳しい。）
- 2) 第四中学校（①集団不適応を起こし、不登校になる生徒をなくすため、校内中間教室をつくっている。この教室にいる生徒の心のケアに対応する職員が足りない。②原峰分室で学ぶ生徒の学習を支援する人手が足りない。③校内環境整備の人手が足りない。（除草、剪定、除雪））
- 3) 第六中学校（2月14日の時の大雪の時の通学路や校舎内の除雪）

問6 学校と地域を結ぶコーディネーター役として窓口を設ける場合、どんな方法（仕組み）があればいいと思いますか。

①PTA組織を活用した仕組み

②地域協議会（又は地域の住民組織）を活用

③公民館（社会教育指導員）を活用

④地域の学校関係者（先生のOB等）を活用

⑤方法は問わない

⑥その他（ ）

答6 複数回答あり

- ①⑤、⑥と回答した学校 なし
② と回答した学校 3校
③ と回答した学校 5校
④ と回答した学校 2校

問7 地域との連携や小・中・高校との交流など、実現できればいいと思われる活動があれば御記入ください。

答7 学校ごとの回答は以下のとおり。

- 1) 川辺小学校（①地域の方々を講師に行うクラブ活動②郷土資料室の整備も含めた郷

土学習への寄与③キャリア教育の一環として地域の職場体験（ぶれジョブ）

- 2) 第四中学校 (①避難訓練（将来は広域避難訓練）のあり方の指導に、生徒会の安全委員会に助言者として参加してもらう②上田千曲高校の教員または生徒による授業：数学（3年相似な図形＝測量）、家庭科（保育、調理実習、食と栄養＝生活福祉科、食物栄養科）)

問8 コミュニティスクールの導入に向けての課題は何かありますか。

答8 学校ごとの回答は以下のとおり。

- 1) 南 小学校（コーディネーター役の方がいてくれるとありがたい）
- 2) 川辺小学校（他で成功している例を見ると、全体を調整するコーディネーターがないで、教頭の力不足もありなかなか広まっていかない。できれば地域の方（公民館など）主導で行えるとありがたい）
- 3) 城下小学校（コーディネーター（学校と地域を結ぶ仕事）の存在）
- 4) 第四中学校（大規模校で学力・体力の向上、不登校・不適応未然防止、事故防止に全職員で取り組む必要があり実行している。手が足りない時もあるが、ボランティアの方との連絡会を設定していくことに労力を注げない。必要になった時にのみ声をかけると集まつていただけるような仕組みがほしい）
- 5) 第六中学校（他の先生は生徒のことで手いっぱいであるので）学校とボランティアをつなぐ役目は教頭が行うことになり、とてもたいへんになること）

問9 貴校の校舎内に、ボランティア活動の中心的な場所となり得る「空き教室（物置部屋を含む）」などがありますか。

答9 学校ごとの回答は以下のとおり。

- 1) 南 小学校、城下小学校、第四中学校（ない）
- 2) 川辺小学校（郷土資料室を今的一部屋から二部屋にして、上田原資料館の展示物・資料を移動し充実を図るとともに、一部屋のうちの一部スペースをコミュニティ空間とすることを考えています）
- 3) 第六中学校（現在は、一教室を英語研究室とボランティアルームで一緒に使っている）

問10 学校支援ボランティアの仕組みづくりに向けて、地域や市に対する要望、意見等がありましたら御記入ください。

答10 学校ごとの回答は以下のとおり。

- 1) 南 小学校（人材リストがあるとよい）
- 2) 川辺小学校（コーディネーターの方をぜひ紹介していただきたい、先進校の取組を学校に具体的に伝授してくださる機会をとっていただけだと大変ありがたい）
- 3) 第四中学校（運営が難しくなると思いますが、ボランティアさんが来て活動するにあたって、その準備や実施に際し職員が対応に追われることにならないようにしたいと考えます。必要な時に素早く入ってもらえることが理想です）
- 4) 第六中学校（あまりお互い無理をしない内容で継続できるようにすること、学校の要望に応えていただける柔軟性をもって取り組んでほしい）

城南地区内小中学校 学校訪問 懇談結果概要

学校名	南小学校	川辺小学校	城下小学校	第四中学校	第六中学校
訪問日	8月4日13時30分	8月4日15時	8月4日13時30分	8月4日15時	8月5日9時30分
訪問者	委:宮本・河野・新谷 職:館長	委:宮本・河野・新谷 職:館長	委:柳沢・田中・山崎 職:矢澤	委:柳沢・田中・山崎 職:矢澤	委:柳沢・宮本・田中 職:館長・矢澤(樋口)
対応者	教頭	学社担当教諭2名	教頭、学社担当教諭	教頭	校長・教頭・教務
学校サポート活動の現状(ボランティアの概要)	<ul style="list-style-type: none"> 見守り隊 読み聞かせ 教科:書道、米作り 総合:リサイクル学習、お蚕、薬物乱用防止、喫煙防止教育、食育 クラブ活動 落ち葉掃き 	<ul style="list-style-type: none"> 見守り隊 読み聞かせ 教科:地域の社会見学、歴史学習、合唱指導 総合:豆腐作り、キャラ教育 資料室準備 	<ul style="list-style-type: none"> 見守り隊 読み聞かせ 教科:地域学習、水泳指導、米作り 総合:絵手紙、福祉交流、新聞づくり、薬物乱用防止・喫煙防止教育、食育 その他:ロビンソンの会、コスマス祭り、夏休み子ども寺子屋 クラブ活動 花植え・花壇 	<ul style="list-style-type: none"> 総合:薬物乱用防止・喫煙防止教育、食育、職場体験、防災訓練 その他:ねぶたまつり 部活動コーチ 	<ul style="list-style-type: none"> 見守り隊 読み聞かせ 教科:数学 総合:職場体験、語りの会 その他:ふるさとタイム、四者会議 部活動コーチ
ボランティアの人数	50人	13人	40人		11人
ボランティアルーム	無し 現段階では必要ない	川辺小郷土資料室の隣の部屋 現在準備中	無し 欲しいが空きスペースが無い。和室に案内するが立ち寄りにくい様子。	無し 図書館を使うことは可。	英語研究室 学習支援の前後に使用。来校時には職員室の名札を裏返す。
コーディネーター(窓口)	教頭	学社担当教諭 必要に応じて→川辺小郷土資料室準備会(地域の有識者)	学社担当教諭 必要に応じて→夏休みこども寺子屋事務局長(地域の有識者)		教頭 川西公民館社会教育指導員
運営委員会の有無等	今は無い。 学校支援がメインの「南つ子応援隊」をベースに作ることは可能。	今は無い。 郷土学習がメインの「川辺小郷土資料室準備会」をベースに作ることは可能。	有る。 「学社融合連絡会」(地域の役職・有識者・ボランティア等)学校運営や評価について意見を聞いてい る。 CSIに向けて委員の構成を見直す必要有。	無い	有る。 「学校支援地域ボランティア運営委員会」学校運営や評価について意見を聞いてい る。 CSIに向けて地域の役職等を加える必要有。
特色	ボランティア団体や個人は複数存在する。 ボランティアは学校からの要請に基づき、活動時のみ来校。	郷土学習の他に、特別支援学級への学生ボランティアがいる。 3年ほど前、長大からの要望で定期的に支援学級に学生が入っている。大学からの指導もあり、児童からの信頼も厚い。学生にとっても現場が学べる場となっている。	学社連携の歴史が古い。「学社融合連絡会」を定期的に開催している。 地域住民が月2回環境ボランティアを実施。PTA役員・OBも休日のイベントを企画運営している。地域の人々が講師の夏休み子ども寺子屋も大人気。	防災訓練について、城下自治連の役員が入り、本格的な訓練を実施している。 美術部が「ねぶた」の制作を地域の人と行っている。	地域との交流を大切に考えている。職場体験は全て六中学区内の事業所。ふるさとタイムでは奉仕活動、四者会議では地域の方々と話し合いをしている。地域との交流が根付くと学校への苦情も激減する。
要望	学習支援ボランティアが欲しい。丸付けボランティア募集中。	学習支援ボランティアが欲しいが、地域の人々が教室に入る体制がまだ整っていない。	学習支援ボランティアが欲しい。公民館にコーディネーター的な役割を依頼したい。	学習支援ボランティアが欲しい。技術家庭科、数学、特別支援学級や原峰分室等。	ボランティアを増やす予定は無い。毎授業後、感想用紙を提出いただき、反省点を生かしている。
CSIにむけて学校の展望	信州型の型から入るのではなく、職員の要望に沿った支援体制を考えたい。コーディネーターも現在は教頭で対応できている。必要に応じて公民館の協力を依頼したい。	信州型導入に向けて模索しているが、新しい組織を作るのではなく、現在、頼りにしている郷土資料室準備会の委員と協力しながら進めていくのが自然。	学社融合連絡会の内容、委員の構成を検討し、今年度中にはCSを立ち上げたい。	まずは学習支援ボランティアから始めてい。	学習支援ボランティアが入って1年。授業が分かる、学校が楽しいと回答する生徒が増えた。これを核にして自然な流れでCSを考えたい。

特科教小学校 おたすけつ十(ヒ)有志隊 支援実績(10月20日現在)

支援項目	対象学年	支援時間数	プランティア参加人数
体育(水泳)	2年生	10时限	17人
体育(運動会補助)	5・6年生	7时限	16人
運動会当日(組体操)	5・6年生		7人
茶道	ひまわり特別支援級	9时限	20人
お手玉	ひまわり特別支援級	11时限	7人
家庭科(エプロン作り)	6年生	13时限	26人
	5年生	35时限	45人
校内探検同行	1年生	2时限	5人
(高齢者探検同行)	5年生	3时限	2人
クラブ活動補助	4・5・6年生	4时限	12人
授業	4年生(特別支援級生)	1时限	1人
(お手玉)	全校生徒	休み時間	62人
(お手玉)	1・2年生	休み時間	21人
			計240人

*4月からの学校事業日(整校日)全ての休み時間(2時間と3時間の間)にプランティアルームを開放、在住し子どもたちとの触れ合いを行った。(延べ490人参加)

- 【その他の支援】
- ・5月4日(月・祝) 花壇整備
 - ・7月6日(月) 1年生七夕飾り用の竹取り用の竹取り
 - ・休み時間のボランティアルーム開放(休み時間支援)
 - ・参観日の駐車場整理
 - ・花壇整備
 - ・おたすけつと杯スリッパ飛ばし大会表彰式開催
- 【学校職員との交流】
- ・力フェ'do'おたすけつと」で茶話会(7月21日)
 - ・流しそうめん(8月18日)
- 【ボランティアのスキルアップとして】
- ・学校支援ボランティア講習会、講演会の参加
 - ・佐久市シニア大学学生説明
 - ・おたすけつと(+)有志隊ボランティア会議(8月1日)
 - ・佐久市シニア大学での実践発表会(5月13日、10月21日)
 - ・佐久シニア大学での実践発表会(7月14日、8月5日)
 - ・上田市シニア大学での実践発表会(6月10日、6月17日)
 - ・長野県生涯学習センターでの実践発表会(7月10日)
 - ・学校連携連絡会での実践発表会(7月14日)
- 【今後の予定】
- ・おたすけつと通眉の発行(保護者及び地域への活動報告とする)
 - ・砥石米山城まつり参加

おたすけっ十有志隊

神科小学校おたすけっ十有志隊発行

から版 2015 No.1

はじめまして おたすけっ十有志隊です

私は、「おたすけっ十（+）有志隊」の会長・村田和良です。このたび「おたすけっとかわら版」発刊にあたり、書籍は弊校中し上げます。

私たちおたすけっ十有志隊は、地域と学校のパートナーシップを結び、学校からの要請を受けて地域住民により子ども達の学習や活動を支援するとともに交流と親睦を図り安全・安心異世代交流の盛んな地域づくりを進めることが目的として、ボランティア有志が集まり昨年の4月に発足いたしました。

主な活動は、学校からの支援要請による学習支援、特別活動や行事の支援、2時間毎の休み時間におけるボランティアルームでお手玉、コマ回し、羽根つき他の音遊び、テラスにおけるチビボン、子どもたちの話題相手など多岐に渡って活動しています。

また、支援ボランティアの裏える場、子どもたちの機り所として学校に要請をして設けられたボランティアルームでは、地域住民と学校との接点、学校からの支援要請を受け入れ窓口、意見・要望交換、連絡調整、ボランティア同士のコミニティーの場所となり有志義に使用し効果を発揮しております。



本当にありがとうございます♪

神科小学校長 田畠和秀

運営にまみれたたくさんの古い資料と昔の道具類でいっぱいだった資料室が、壁を入れ替え、壁も新築に替わり替えられ、さらに皆の道具類もきちんと展示され、一つ一つ説明のカードがつけられた。(畠先生が製作して下さいました)

部屋の隅に残っていたガラスケースに入った類似の方モシカモ堂々と出現した。貴重品である「柴籠焼き」の大きな壺を見つかり、動かないよう丁寧にホールド固定までしていただき、つづいて「説明のカードがつけられた。(畠先生が製作して下さいました)

とにかく見違えるような部屋となつた。

そしてボランティアの方々が常駐し、「おたすけっ十」と一緒に活動する様子が毎日見て下さるようになつた。

校外学習に十人近くも引率のお手伝いをして下さったり、授業のお手伝い、時には水泳の見守りや運動会のお手伝いもいたいたた。お茶、骨牌の相手、休み時間には心のオアシスとしてちぎり利用している子ども達もいる。先生方よりボランティアルームのことをよく知っている子ども達である。

学校と地域を繋ぎ、地域の方で学校を応援して下さった多くの方に改めてお礼を述べてみたいと思います。神科の子供達は本当に幸運です。

通じ、自分の存在と生かがこもるを感じてることのいいです。最後に、地域住民の皆さんもボランティアルームに遊びに来てください。お待ちしております。

多くの方に改めてお礼を述べていただき、神科の子供達は本当に幸運です。学校にお越しの折には、ぜひボランティアルームに遊びに来てみてください。美しい笑顔の、明るい職人の皆さんが、あなたがく迎えてくれると思います。

多くの方に改めてお礼を述べていただき、神科の子供達は本当に幸運です。

活動の一例をご紹介します。

【授業支援】(平成26年度実績)

支援時間数…194時間

参加延べ人数…306人

主な支援内容(抜粋)…音遊び(1年生)、豆腐づくり(2年生)、木工作(3・4年生)エプロンづくり(5・6年生)、お手玉(ひまわり学級)など。

【その他の支援】

休み時間のボランティアルームでのふれあいなど数多くの支援に携わる。

♪活動の様子は、裏面をご覗ください♪

平成26年4月に立ち上がった学校支援の「おたすけっ十有志隊」。来年の大河ドラマの「真田丸」よりもひと足早く「十勇士」として活躍を始めました。子どもたちのパワーをもらって、なんだか少し若返ってきた気がする今日この頃。発足からまもなく1年を迎えます。保護者の皆さん、地域の皆さんにも私たちの活動を知っていただき、どんどん仲間が増えることを願っています。

メンバーは、随時募集中です!興味のある方お待ちしています。(S)

コーディネーターの4つの役割

受けとめる

- ①学校のニーズ
- ②先生の感想・相談・悩み・喜び
- ③ボランティアのニーズ
- ④ボランティアの感想・相談・悩み・喜び

知らせる

- ①学校が必要とするボランティアの情報
⇒募集
- ②活動の様子や情報を先生や児童生徒や保護者に伝える
- ③地域に活動の情報を周知する

つなぐ

- ①ボランティアや地域の情報収集と整理
- ②学校のニーズの把握し調整してボランティアを紹介
- ③ボランティアからの希望を、学校に伝えて活動を紹介

育てる

- かかわる大人の視点を増やす
- ①先生方への研修の企画・実施
- ②ボランティア研修の企画・実施
- ③先生とボランティアの交流会
- ④他の地域へ出かけて研修に参加
- ⑤活動案の作成

学校支援ボランティアのタイプ

施設メンテナンス型

施設の整備・塗装、鋼管小屋、刃物研ぎ、植木の剪定、パソコン修理、保健室補助

ほか

スクールサポート型

教材指導(地域講師)、ものづくり指導、伝統芸能演示、部活動指導ほか

少人数指導・ITの指導の補助、教材作成の協力、通学安全指導、校外学習の引率、児童生活との交渉ほか

学校内外パトロール、図書室運営、図書管理、花壇整備、施設の清掃、草取り、ビデオ撮影、体験活動受け入れほか

参考文献
「学校支援ボランティア」より